

基本施策H1 市民が主役のまちづくりを進めます

主管課：自治振興課

個別施策

H1-1 地域コミュニティの活性化を促進します

H1-2 市民活動団体への支援の充実を図ります

ア 施策の目的

市民が、それぞれの役割を果たしながら、連携してまちづくりを進めている

イ 基本施策の評価

D d 目標を達成しておらず、目的達成に向けた課題の克服などが遅れている

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
地域活動や市民活動への参加意向割合	82.8% (26年度)	↑	目標値	84.8	85.8	86.8	87.8	88.8	88.8
		実績値	78.7	83.8	84.6	82.4	85.2	85.6	
		達成率	92.8%	97.7%	97.5%	93.8%	95.9%	96.4%	
自治会加入率	70.3% (27年度)	↑	目標値	70.4	70.5	70.6	70.7	70.8	70.8
		実績値	68.7	69.8	69.4	68.7	67.6	66.8	
		達成率	97.6%	99.0%	98.3%	97.2%	95.5%	94.4%	

エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

オ 審議会における政策評価に関する意見

なし

カ 審議会における施策推進に向けた提案

(1)自治会の加入率が上昇しない要因として、高齢者が増えてしまい、自治会の役員をできない方が脱退するケースがすごく多い。数は把握できていないが、加入を促進しても、それ以上にやめる方が多い状況である。地域コミュニティ協議会では自治会に入っている人ではなく、自治会に入っていない人の声も聴いてくださいというが、現実はそうはうまくいかない。また、自治会は行政から依頼される仕事が多く、自治会独自の活動ができないのが現実であることを理解してもらいたい。

- (2) 自治会への加入をメリット・デメリットで判断しがちであるが、メリット・デメリットで考えると確実に入会者は横ばいになってしまうので、自分たちの地域をどうしていくかという「地域おこし」をメインテーマとして掲げるべきだと思う。その点では、地域コミュニティ連絡協議会の設立件数が伸びていることに期待している。
- (3) 一度何かの行事に関わると、そこに愛着がわいて色々な先輩方の苦勞がわかり、自分も力を貸さないといけないなと実感するので、そのきっかけづくりを作っていく必要があると思う。
- (4) 自治会とのつながりは回覧板くらいしかないが、若い世代に自治会に残ってもらうためにも、自治会情報の周知にラインやインスタなどの SNS を活用してはどうか。
- (5) 地域コミュニティを進めるために、おそらく市内の先進事例を参考に思うが、世界規模の地域コミュニティを考えたときに、だんだんと人間が個人化していく中で、コミュニティをどう維持していくかはどこでも考えていることなので、もう少し視野を広げて、そもそもコミュニティとは何かを大局的に考える必要がある。少なくとも自治会は市役所がやらない雑用をやる機関ではないと思う。
- (6) 自治会が加入促進を図る大きな目的として、地域の中の見守りがあると思うが、高齢化が進むなかで、行政は地域の見守りが大事というが、現実問題として、個人の情報がわからない、誰がどこに住んでいるかわからない状況で、それができないことが、地域の一番の悩みである。個人情報踏まえた新たな見守りのあり方について、行政と自治会の役割を踏まえて検討してもらいたい。
- (7) 地域コミュニティを支える仕組みについて、もっと多面的に大学生を活用したらどうか。ゼミの先生にもそのような主旨をねらいとする方々は少なくないと思う。